

公益財団法人 サントリー芸術財団 音楽事業部

107-6022 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル22F Tel: 03-3582-1355 Fax: 03-3582-1350

Nosfa0009 (2016.3.15)

第47回（2015年度）サントリー音楽賞は トッパンホール に決定



公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤 剛、鳥井信吾）は、わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈る「サントリー音楽賞」の第47回（2015年度）受賞者をトッパンホールに決定しました。

●選考経過

1. 2016年1月11日（月・祝）ANAインターコンチネンタルホテル東京において、選考委員7名により第一次選考を行い、候補者を選定した。
2. 引き続き3月10日（木）ホテルニューオータニ東京において最終選考会を開催、選考委員7名により慎重な審議の結果、第47回（2015年度）サントリー音楽賞受賞者にトッパンホールが選定され、3月14日（月）理事会において正式に決定された。

●賞金は700万円

●贈賞理由は別紙のとおり

●選考委員は下記の7氏

伊東信宏・片山杜秀・白石美雪・長木誠司・榎崎洋子
松平あかね・三宅幸夫

（敬称略・50音順）

<贈賞理由>

トッパンホールは2000年10月、凸版印刷株式会社の創業100年を機に設立され、昨年の秋に開館15周年を迎えた。客席数408の親密な空間と優れた音響特性を有する日本有数の室内楽ホールだが、それに加えて、このたびは1シーズンに30回を超える主催公演が高く評価された。ハーゲン・クアルテットによるモーツァルト・ツィクルス（10月1～4日）、ピアノのピーター・ゼルキン（10月5日）、ヴァイオリンのジュリアーノ・カルミニョーラとヴェニス・バロック・オーケストラ（10月23日）、1887年製ニューヨーク・スタインウェイを用いた「アンドレアス・シュタイアー プロジェクト9」（12月8日）など、2015年の記念公演には質量ともに目覚ましいものがあった。

またクラリネットのアンドレアス・オッテンザマー（2月26日）、ヴァイオリンのレジス・バスキエ（3月24日）、ピアノのジャン＝クロード・ペヌティエ（5月8日）など、作品の知名度にとらわれない積極的なプログラミングを推進してきた功績は大きい。

「エスポワール」や「日下紗矢子 ヴァイオリンの地平」など、日本の若手の発掘や育成を目指したシリーズ企画も充実していた。

同ホールの主催公演で特筆に値するのが「歌曲の森～詩と音楽」のシリーズである。これまでマーク・パドモア、イアン・ポストリッジ、クリスティアン・ゲルハーヘル、ナタリー・シュトゥッツマンなどによってピアノ伴奏つき歌曲の真髄が披露されてきたが、2015年度はテノールのクリストフ・プレガルディエンとピアノのミヒャエル・ゲースによるリーダー・アーベント（5月13日、15日）がこれに続いた。リートという地味なジャンルで、これだけの企画を実現させ、しかも聴衆の幅広い支持を獲得していることは驚嘆に値すると言えよう。

<略 歴>

トッパンホール

凸版印刷株式会社の創業100周年事業として、社会文化貢献活動の一翼を担う目的で設立された。2000年10月1日開館。音楽ホール運営にクラシックを選んだ理由のひとつには、西洋という一地域で生まれた音楽が世界的に普及・発展したことに、楽譜の存在と印刷技術が大きく関わっていることがある。世界的にも稀有な“響きすぎない”クリアな音響を特徴とし、室内楽に最適な音響と木のぬくもりに満ちた親密感の高い空間を有する。席数408。

年間30数本を数える主催事業では、徹底して質の高さにこだわって室内楽の豊かさと可能性を追究。欧米の第一線に伍すると、国内外の多くのアーティスト、聴衆から評価される独自の内容で、その企画力と実現力には高い信頼が寄せられている。開館初期から、ハーゲン・クアルテット、ライナー・クスマウル（ヴァイオリン）、ジュリアーノ・カルミニョーラ（ヴァイオリン）、アンドレアス・シュタイアー（フォルテピアノ）、ティル・フェルナー（ピアノ）等のアーティストと独自プロジェクトを展開するほか、海外の有望な若手の日本初リサイタル、邦人若手の発掘・育成にも積極的、継続的に取り組み着実な成果を挙げる。ほかにも、マスタークラスやイベント等を通じたクラシックファン層の拡大、地域貢献などその取り組みは広く、独創性に富む運営はトッパンのメセナ活動としても注目を集め続けている。

以 上

(ご参考)

サントリー音楽賞について

公益財団法人サントリー芸術財団では、1969年の設立以来、わが国における洋楽の振興を目的として、毎年、その前年度においてわが国の洋楽文化の発展にもっとも顕著な功績のあった個人または団体を顕彰し、「サントリー音楽賞」(旧名・鳥井音楽賞)を贈呈しています。賞金は700万円です。

これまでに「サントリー音楽賞」を受賞した方々は下記の通りです。

第1回	1969年度	小林 道夫 (ピアノ・チェンバロ・指揮)
第2回	1970年度	堤 剛 (チェロ)
第3回	1971年度	三谷 礼二 (オペラ演出)
第4回	1972年度	小川 昂 (理論・評論)
第5回	1973年度	ICUオルガン委員会 (国際基督教大学)
第6回	1974年度	秋山 和慶 (指揮)
第7回	1975年度	栗林 義信 (声楽) 山根 銀二 (評論)
第8回	1976年度	芥川 也寸志と新交響楽団
第9回	1977年度	常森 寿子 (声楽)
第10回	1978年度	松村 禎三 (作曲)
第11回	1979年度	吉原 すみれ (打楽器)
第12回	1980年度	妹尾 河童 (舞台美術)
	特別賞	江戸 英雄 (第1回日本国際音楽コンクール会長)
第13回	1981年度	柴田 南雄 (作曲)
第14回	1982年度	外山 雄三 (指揮)
	特別賞	原 清 (ザ・シンフォニーホール建設グループ代表)
第15回	1983年度	鈴木 敬介 (オペラ演出)
第16回	1984年度	豊田喜代美 (声楽)
第17回	1985年度	日本テレマン協会 (室内管弦楽団・合唱団)
第18回	1986年度	内田 光子 (ピアノ) 若杉 弘 (指揮)
第19回	1987年度	岩城 宏之 (指揮)
第20回	1988年度	林 康子 (声楽)

第21回	1989年度	有田 正広 (古楽演奏)
第22回	1990年度	武満 徹 (作曲)
第23回	1991年度	尾高 忠明 (指揮)
第24回	1992年度	練木 繁夫 (ピアノ)
第25回	1993年度	五嶋みどり (ヴァイオリン)
	特別賞	ウォルフガング・サヴァリッシュ (指揮)
第26回	1994年度	和波 孝禧 (ヴァイオリン)
第27回	1995年度	今井 信子 (ヴィオラ)
第28回	1996年度	園田 高弘 (ピアノ)
		湯浅 譲二 (作曲)
第29回	1997年度	東京交響楽団
第30回	1998年度	林 光 (作曲)
第31回	1999年度	三善 晃 (作曲)
第32回	2000年度	飯守泰次郎 (指揮)
第33回	2001年度	一柳 慧 (作曲)
第34回	2002年度	小澤 征爾 (指揮)
		木村かをり (ピアノ)
第35回	2003年度	野平 一郎 (作曲、ピアノ)
第36回	2004年度	西村 朗 (作曲)
第37回	2005年度	鈴木 秀美 (チェロ・指揮)
第38回	2006年度	東京混声合唱団
第39回	2007年度	細川 俊夫 (作曲)
第40回	2008年度	小山 由美 (声楽)
第41回	2009年度	大野 和士 (指揮)
第42回	2010年度	渡邊 順生 (チェンバロ)
第43回	2011年度	該当者なし
第44回	2012年度	藤村 実穂子 (声楽)
第45回	2013年度	鈴木雅明とバッハ・コレギウム・ジャパン
第46回	2014年度	広上淳一と京都市交響楽団
特別贈賞	1979年6月	巖本真理弦楽四重奏団
〃	1997年8月	黛 敏郎 (作曲)

以 上